



オーストラリア・モナシュ大学の語学研修【関連記事7ページ】

リハビリテーション科学部を新設します

リハビリテーションを通して地域住民の健康増進と
QOLの向上に貢献できる医療人を養成します

リハビリテーション科学部・設置準備委員長 大野 弘機



2011年12月開催の理事会(第233回)において、理学療法学科(PT, Physical Therapy)と作業療法学科(OT, Occupational Therapy)の2学科から構成される「リハビリテーション科学部」の設置が承認されました。現在、2013年4月の開設に向けて準備中です。リハビリテーション科学部は、本学では5番目の学部であり、本学の教育理念の「保健・医療・福祉の連携と統合」および行動目標の「新医療人育成の北の拠点を目指す」を実現するために、本学の基盤整備の一環として「2020行動計画」の中で策定されたものです。

北海道におけるリハビリテーション領域の人材養成機関は、大学は3校(札幌医科大学、北海道大学、北海道文教大学)のみで、他は専門学校として3年制が2校と4年制が4校あります。本学が参入することに対して一部で人材の過剰が懸念されております。そこで本学は、第三者機関にお願いして道内の高等学校や関連する医療機関を対象として、受験生や卒業生の就職先の確保などを主にした広範な項目にわたるニーズ調査を実施いたしました。その結果、高齢社会の現状と医療過疎地を多く抱える北海道という地域的特殊性から、リハビリテーション科学部設置に寄せる期待は非常に大きいことが判明しました。

質の高い医療を実現するためには、高度な教育を受けたコメディカル・スタッフによる医療の実践が不可欠です。リハビリテーション科学部は、国家試験合格率の100%達成は当然目指しますが、それに留まらず多職種のメディカル・スタッフと連携できる高度な専門職能人を養成したいと考えています。

本学は、学部と同時に大学院(修士課程)も開設しようとしております。本学の大学院構想に対しては現場で働く多くの理学療法士や作業療法士の人たちが社会人入学について強い関心が寄せられています。科学的根拠(Evidence)に基づいた治療計画を策定し、治療効果を評価するためには、臨床研究は不可欠です。そのためには、3つの能力、すなわち「臨床dataを蓄積する能力」「症例を解析する能力」「結果を公表する能力(プレゼンテーション能力・論文作成能力)」を涵養する必要があります。これが大学院での人材養成における高度化の具体的方策です。

さらに、本学では、「地域リハビリテーション・センター」の開設など、高度な学習環境の基盤整備を構想中です。

これらの構想が実現することによって、地域や国際社会に幅広く貢献できる人材養成が可能となると確信します。

CONTENTS

リハビリテーション科学部を新設しますー	1
教員役職者・新任教員・昇任教員紹介	2
2013年4月、リハビリテーション科学部新設 歯科医療最前線	3
国家試験結果報告	4
就職状況結果報告	5
2012年度入試結果報告 新入生オリエンテーション ベンチプレス世界選手権大会	6
オーストラリア・モナシュ大学 語学研修レポート	7
私の学生時代	8
OG訪問【薬学部】	9
学校法人東日本学園 ○2011年度決算 ○2012年度予算	10
新入生アンケート結果報告 EDITOR'S NOTE	12

教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介

新規選出教員役職者

副学長
黒澤 隆夫

薬学部長
和田 啓爾

薬学研究科長
平藤 雅彦

心理学部部長
中野 倫仁

個体差医療科学センター長
川上 智史

情報センター長
千葉 逸朗

薬学部

学生部長	小田 和明
教務部長	齊藤 浩司
学生部副部長	青木 隆
	増田 園子
教務部副部長	吉村 昭毅

心理学部

臨床心理学部長	近藤 清美
言語聴覚療法学科長	木下 憲治
学生部長	中野 茂
教務部長	富家 直明
学生部副部長	今井 智子
教務部副部長	田村 至

新任教員



薬学部教授
(人間基礎科学講座:化学)
鈴木 一郎 (すずき いちろう)

PROFILE
東北大学理学部卒業。同大学院理学研究科博士課程修了。徳島大学薬学部助手、広島大学大学院医薬学総合研究科准教授を経て、本学就任。理学博士。



心理学部講師
(臨床心理学科)
百々 尚美 (とび なおみ)

PROFILE
広島修道大学人間科学部卒業。同大学院心理学研究科博士前期課程、本学大学院心理学研究科博士課程修了。医療法人清心会山本病院診療科検査臨床心理士、大阪人間科学大学人間科学部准教授を経て、本学就任。臨床心理学博士。



薬学部准教授
(生命物理学講座)
波多江 典之 (はたえ のりゆき)

PROFILE
岐阜薬科大学薬学部卒業。九州大学大学院薬学研究科修士課程修了。京都大学薬学部教務補佐員、National Institute of Health(米国国立衛生研究所) 招聘博士研究員、松山大学薬学部准教授を経て、本学就任。薬学博士。



教授
鎌田 樹寛 (かまた たつひろ)

PROFILE
北海道大学医療技術短期大学卒業。東京都立保健科学大学大学院保健科学研究科修士課程修了。医療法心友会老人保健施設愛里苑作業療法科主任、学校法人仙台学園山形リハビリテーション専門学校作業療法学科長、神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部講師を経て、本学就任。作業療法学博士。



薬学部講師
(薬学教育支援室)
田原 佳代子 (たはら かよこ)

PROFILE
共立薬科大学薬学部卒業。同大学院薬学研究科博士前期課程、博士後期課程修了。共立薬科大学薬学部助手、慶應義塾大学薬学部助教を経て、本学就任。薬学博士。



講師
宮崎 充功 (みやざき みつのり)

PROFILE
札幌医科大学保健医療学部卒業。筑波大学大学院体育研究科博士前期課程、同大学院人間総合科学研究科博士後期課程修了。医療法人健社会いちほ病院理学療法士、日本学術振興会特別研究員を経て、本学就任。体育科学博士。



看護福祉学部教授
(臨床福祉学科医療福祉臨床学)
北川 信樹 (きたがわ のぶき)

PROFILE
北海道大学医学部卒業。道立向陽ヶ丘病院医師、北海道大学医学部附属病院精神科神経科助手、同病院医長、市立稚内病院精神神経科主任医長、北海道大学病院精神科神経科助教を経て、本学就任。医学学士。



個体差医療科学センター講師
(医学部門)
田川 義晃 (たがわ よしあき)

PROFILE
慶應義塾大学医学部卒業。北海道大学病院眼科医員、医療法人深仁会手稲溪仁会病院眼科医師等を経て、本学就任。医学学士。



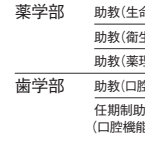
看護福祉学部講師
(臨床福祉学科医療福祉政策学)
奥田 かおり (おくだ かおり)

PROFILE
University of Michigan Bachelor of Art(心理学専攻)卒業。Columbia University School of Social Work Master of Science修了。NPO法人グラハムウィンドム児童虐待防止プログラムシニアケースプランナー、札幌市若者支援総合センター専門相談員等を経て、本学就任。Master of Science



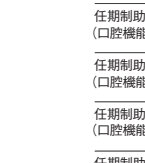
認定看護師研修センター専任教員
(皮膚・排泄ケア分野)
高江洲 亜利沙 (たかえす ありさ)

PROFILE
日鋼記念看護学校卒業。本学認定看護師研修センター皮膚・排泄ケア分野修了。医療法人社団カスライアンス日鋼記念病院外科病棟スタッフナース、社会医療法人母恋日鋼記念病院病棟管理室看護主任等を経て、本学就任。



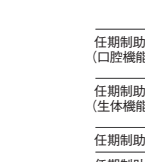
薬学部

助教(生物物理学講座)	斉藤 俊英
助教(衛生薬学講座)	石川 美香
助教(薬理学講座)	鹿内 浩樹



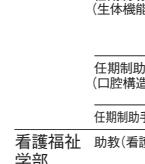
歯学部

助教(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	門 貴司
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	上與那原 朝秀
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	小松 寿明
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	妹尾 智子
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	岸田 佳恵
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	宮本 琢也
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	石川 真由子
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	大塚 英哲
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	佐々木 みづほ
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	北木 太郎
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	建部 廣明
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	榎原 豪
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	福井 剛
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	植村 太輔
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	鬼頭 秀和
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	内澤 理恵
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	高木 亮樹
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	成田 祥子
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	佐藤 幸平
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	永坂 萌
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	松沢 史宏
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	村井 雄司



看護福祉学部

助教(看護学 実践基礎看護学)	福井 純子
助教(看護学 成人看護学)	齊藤 美沙
助教(看護学 臨床福祉政策学)	橋本 茜



心理学部

助教(臨床心理学科)	川勾 亜紀奈
助教(言語聴覚療法学科)	金澤 潤一郎
助教(言語聴覚療法学科)	飯泉 智子
助教(言語聴覚療法学科)	前田 秀彦
助教(言語聴覚療法学科)	葛西 聡子
助教(言語聴覚療法学科)	浅野 葉子
助教(言語聴覚療法学科)	朝日 まどか
助教(言語聴覚療法学科)	児玉 壮志

昇任教員



薬学部准教授
(人間基礎科学講座:英語)
足利 俊彦 (あしかが としひこ)

PROFILE
中央大学文学部卒業。米国コロロニア大学教育学部大学院英語教授法専攻修士課程、同大学院応用言語学専攻修士課程修了。同大学院応用言語学専攻修士課程単位取得満期退学。米国コロロニア大学教育学部大学院付属 Community English Program 英語講師。本学薬学部講師等を経て、准教授就任。M.Ed.in Applied Linguistics



心理学部教授
(臨床心理学科)
富家 直明 (とみいえ ただあき)

PROFILE
早稲田大学人間科学部卒業。東北大学大学院医学系研究科博士課程修了。東北大学病院心療内科臨床心理士、宮崎大学教育文化学部助教授、本学心理学部准教授を経て、教授就任。障害科学博士。



心理学部准教授
(言語聴覚療法学科)
田村 至 (たむら いたる)

PROFILE
慶應義塾大学法学部、文学部卒業。同大学院文学研究科修士課程修了。上智大学大学院外国語学研究科修士課程修了。札幌医療福祉専門学校専任教員、本学心理学部講師等を経て、准教授就任。医学博士。



歯学部講師
(生体機能・病態学系(歯科麻酔科学))
小関 裕代 (こせき ひろよ)

PROFILE
北海道大学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。本学個体差医療科学センター歯学部門助教、歯学部生体機能・病態学系歯科麻酔科学分野助教を経て、講師就任。歯学博士。



心理学部准教授
(臨床心理学科)
森 伸幸 (もり のぶゆき)

PROFILE
北海道大学文学部卒業。同大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。北海道大学非常勤講師。本学心理学部講師等を経て、准教授就任。文学修士。



心理学部准教授
(言語聴覚療法学科)
橋本 竜作 (はしもと りゅうさく)

PROFILE
立命館大学文学部卒業。東北大学大学院医学系研究科修士課程修了。田尻町国民健康保険診療所(現・大崎市民病院田尻診療所)心理担当主任、大阪医科大学医学部助教、本学心理学部講師等を経て、准教授就任。障害科学博士。



心理学部教授
(臨床心理学科)
堀内 ゆかり (ほりうち ゆかり)

PROFILE
筑波大学第二群人間学卒業。同大学院心理学研究科博士課程修了。東京成徳大学大学院心理学研究科助教、本学心理学部准教授を経て、教授就任。教育学修士。



心理学部講師
(臨床心理学科)
宮崎 友香 (みやざき ゆか)

PROFILE
北海道大学文学部卒業。本学大学院看護福祉学研究科修士課程修了。医療法人社団五枝会病院臨床心理士主任、本学大学院心理室臨床心理士、北海道教職員10年経験者研修講師、本学心理学部助教等を経て、講師就任。臨床心理学修士。

配置替

心理学部 教授(言語聴覚療法学科) 中川 賀爾

5学部8学科の医療系総合大学へ。(設置構想中) 2013年4月、リハビリテーション科学部を新たに開設します。

少子高齢化など様々な困難を抱える新たな時代を背景に、保健・医療・福祉の分野において貢献する高度なリハビリテーション・スタッフの養成を目的として、新たな学部「リハビリテーション科学部」の開設を現在準備中です。

この開設により本学は5学部8学科となり、医療系総合大学としてさらに進化します。



新学部棟完成予想図

リハビリテーション科学部 [当別キャンパス]

理学療法学科 4年制

[入学定員 80名(予定)]
2年次編入可 [編入学定員 5名] (2014年度より実施)

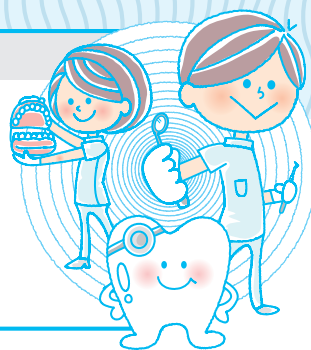
作業療法学科 4年制

[入学定員 40名(予定)]
2年次編入可 [編入学定員 5名] (2014年度より実施)

歯科医師をめざす受験生へ

歯科医療 最前線 vol.6

〔女性歯科医師の活躍 編〕



増えています、女性歯科医師。

20代の歯科医師の 4割が女性です。

世界的に女性の歯科医師は増加傾向にあります。厚生労働省の調査によると2008年12月31日現在、全国の歯科医師数に女性が占める割合は20.2%と2年前の調査から6%上昇しました。年齢別で見ると29歳以下ではなんと40.8%! 歯科医療の未来はウーマンパワーが支えていくといっても過言ではありません。

女性ならではの感性でやさしい雰囲気づくりやこまやかな心遣いをモットーに、現場で活躍する女性歯科医師がたくさんいます。女性

患者さんにとっても、体調の悩みや妊娠中の治療の不安なども同性の歯科医師になら気兼ねなく相談できますね。審美面でのこだわりにも共感をもって応えてもらえそうという安心感も大きいでしょう。子どもの恐怖心も、お母さんやお姉さんのような歯科医師なら少しやわらげることができるかもしれません。

働き方を選べる 女性にやさしい仕事です。

歯科医師の仕事の魅力には、独立開業が可能であること、患者さんの身近な医者であること、入院患者や急患の診察が少なく勤務

時間がそれほど不規則ではないことなどが挙げられます。女性の場合、男性のように力が強くなくても、手が小さくてもデメリットにはなりません。逆に手が小さいことはメリットにもなり、女性が仕事をしやすい診療科といえます。

結婚後の主婦業、子育てとの両立への不安もあるでしょうが、自分自身の努力や熱意、家族や周囲の理解とサポート、託児施設などの環境が関係してくるのは他のどんな職業でも同じです。ただ、一度休職しても十分な技術、臨床力があれば復帰や再就職は難しくありません。限られた曜日や時間で無理なく仕事を続ける人もいます。歯科医師は女性が目標と信念をもって生涯続けられる仕事です。

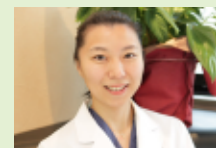
TOPICS

自立を考え選んだ歯科医師。チャレンジングな仕事です。

海外勤務が長く「女性の自立」をよく言っていた父の影響もあり、経済学部3年のときに転向、歯科医師をめざしました。現在は東京・六本木で開業し、臨床に加え海外での講演など充実した日々です。本院は選択肢を多く提示した患者さん本位のクリニックをめざしており、無休、平日深夜4時までの診療で急患に対応し、英語、中国語での診療も行っています。得意分野はマイクロスコープや歯科用CTなどを活用した精密歯科治療、特に根管治療と、抜歯即時インプラントなど短期集中治療ですが、他にも美容歯科、北海道医療大学との提携による抜歯した歯を利用する再生医療など多彩に取り組んでいます。歯科医師は男女の区別なくチャレンジしがいのある仕事です。



虫歯の神経を取り除く根管治療は、再び細菌に感染しないようマイクロスコープを使い、繊細な技術を駆使して徹底的に行う。



医療法人社団恩地会
恩地デンタルクリニック
院長 恩地 景子 さん

本学歯学部歯学科2000年卒業。本学医科歯科クリニック(現・北海道医療大学病院)、コロンビア大学大学院、ニューヨークのデンタルオフィスなどに勤務後、同院開業。根管(歯の根)治療のエキスパートであり、日本での歯内即時インプラントの第一人者。短期集中治療を得意とする。

本学 全国平均



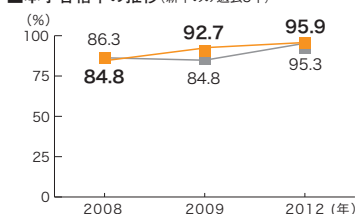
北海道医療大学

(第97回 薬剤師国家試験)

全卒業生の97.5%が薬剤師免許を取得。6年制の国家試験受験がスタート

薬剤師国家試験において本学では高い合格率をキープしてきました。旧4年制の最終学年が卒業した2009年の国家試験では合格率92.7%と全国平均を上回り、6年制移行後の最初の国家試験も、95.9%と好成績でした。なお、全卒業生4,810名のうち、97.5%(4,689名)が免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

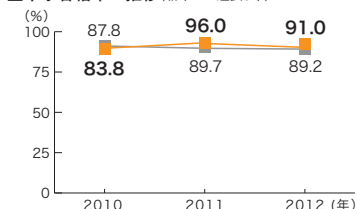


(第98回 保健師国家試験)

新卒合格率は91.0%。多くが看護師とのダブルライセンスを獲得

2012年の第98回保健師国家試験では91.0%(受験者111名、合格者101名)でした。また、合格者のうち94名が看護師と保健師の国家資格をW取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

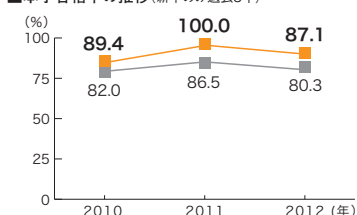


(第14回 言語聴覚士国家試験)

新卒合格率は87.1%。1期生から連続して全国平均を上回る

2012年の第14回言語聴覚士国家試験での本学新卒合格率は87.1%(受験者62名、合格者54名)で、1期生から連続して全国平均を上回っています。また、これまでの全卒業生391名のうち372名が言語聴覚士国家資格を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

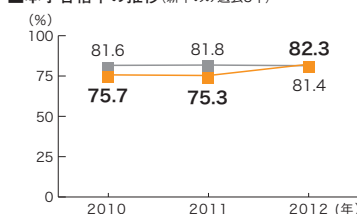


(第105回 歯科医師国家試験)

全国平均を上回る合格率! 免許取得率も98.2%と高水準

2012年に行われた第105回歯科医師国家試験では、本学新卒者62名のうち51名が合格し、合格率は82.3%と、全国平均を上回る結果でした。なお、全卒業生2,841名のうち、98.2%(2,789名)が免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

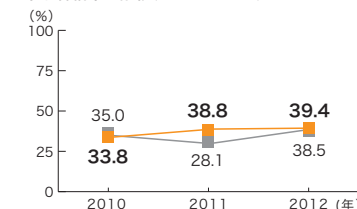


(第24回 社会福祉士国家試験)

新卒合格率は39.4%で、全国平均を上回る

2012年の第24回社会福祉士国家試験での本学新卒合格率は39.4%(受験者71名、合格者28名)で、全国平均の38.5%を上回りました。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



■登録・認定資格取得結果

資格・対象学部学科等	取得者数
介護福祉士 北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科 (介護福祉コース)	7名
認定心理士 北海道医療大学 心理科学部臨床心理学科	68名
訪問介護員2級 北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科	10名

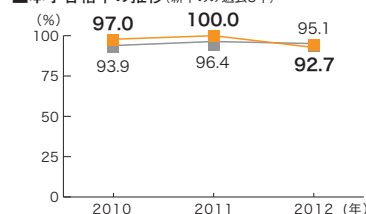
※取得者数は申請要件を満たしている者の数

(第101回 看護師国家試験)

全卒業生1,622名のうち、98.5%が免許を取得

2012年に行われた第101回看護師国家試験では、本学新卒者109名のうち101名が合格し、合格率は92.7%でした。なお、全卒業生1,622名のうち、98.5%(1,598名)が免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

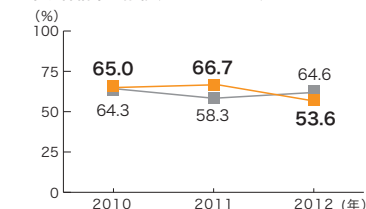


(第14回 精神保健福祉士国家試験)

「精神保健福祉コース」の多くが社会福祉士とのダブルライセンスを取得

第14回精神保健福祉士国家試験の新卒合格率は53.6%(受験者28名、合格者15名)でした。また、「精神保健福祉コース」の学生の多くが社会福祉士とのダブルライセンスを実現しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



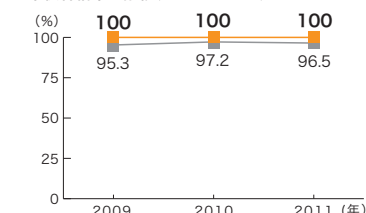
歯学部附属歯科衛生士専門学校

(第20回 歯科衛生士国家試験)

4年連続100% 3年制の国家試験は2013年から

2011年の歯科衛生士国家試験は、本校から第26期生56名が受験し、全員が合格して合格率100%を達成しました。開校以来、高い国家資格取得率を堅持しています。また、本校は文部科学省の定める一定の基準を満たした専門学校なので、卒業すると「専門士」の称号が与えられます。

■本校合格率の推移(新卒のみ過去3年)



就職状況 結果報告

本学卒業生への評価の高さが、求人者の質・量に直結。
より深い知識修得を目指し大学院へ進学する人も。

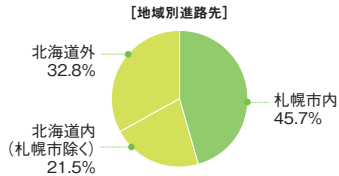
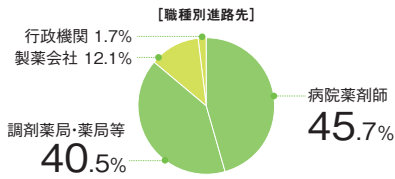
薬学部

2012年は5,000人を超える求人
6年制移行後も高い就職率を維持

6年制初の学生が卒業した2012年は、全国から5,000人を超える求人者が寄せられました。卒業生の多くが希望どおりの就職を果たし、総合病院を中心に病院薬剤師として、また調剤薬局の薬剤師として活躍しています。また、2012年卒業生の約30%が北海道外へ就職しています。

■2012年3月卒業生の就職先

求人数	
薬剤師	5,049人
MR・研究開発職	196人



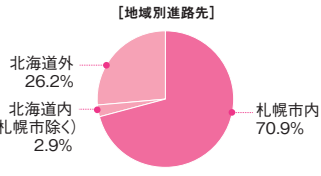
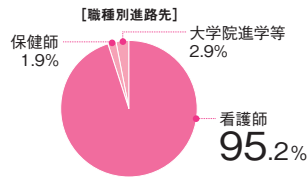
看護福祉学部／看護学科

卒業生は、首都圏を中心に
全国の総合病院で活躍

1993年の開設以来2012年までに、本学看護学科からのべ1,622名の卒業生が巣立っていきました。その多くが大学病院、公立病院を中心とした全国の総合病院で活躍中です。医療現場が本学卒業生へ寄せる期待の大きさは、例年の求人数の多さからもわかります。

■2012年3月卒業生の就職先

求人数	
看護師	19,688人
保健師	180人



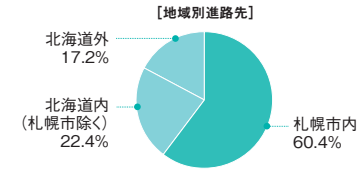
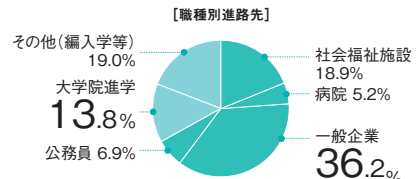
心理科学部／臨床心理学科

ビジネス界、医療・福祉、進学、
専門性を生かす進路は多彩です。

2012年3月卒業生の24.1%が医療や福祉の現場へ就職、13.8%が臨床心理士資格取得をめざして大学院へ進学しました。一方、40%以上は業種業態を問わずさまざまな企業で、また公務員として、専門性を応用する道を選んでいきます。

■2012年3月卒業生の就職先

求人数	
心理職	58人
一般事務・その他	2,772人



歯学部

卒業生全員が臨床能力の向上を
めざして臨床研修医の道へ

歯科医師国家試験合格後には臨床研修が義務化されています。2012年3月の本学の歯科医師国家試験合格者も全員が研修歯科医となり、本学附属歯科内科クリニック、大学病院をはじめとした全国の臨床研修施設で研修を行います。

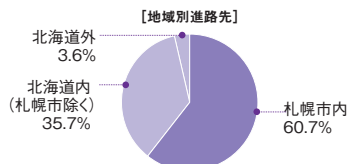
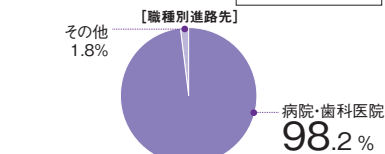
歯学部附属歯科衛生士専門学校

26期連続、就職希望者全員が就職

旧2年制の最終学年が卒業した2011年の卒業生に対する求人数は394名と、就職希望者の7倍もの求人が寄せられ、就職希望者全員が就職し、開校以来26期連続で100%の就職率を果たしました。即戦力を備えた人材として、広く北海道内の病院・歯科医院に就職しています。なお、3年制の第1期生は2013年に卒業します。

■2011年3月卒業生の就職先

求人数	
歯科衛生士	394人



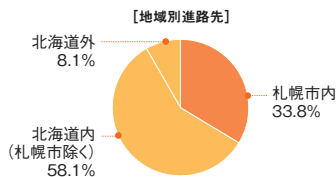
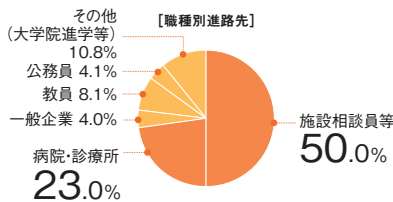
看護福祉学部／臨床福祉学科

就職者の70%以上が専門職。
教員の夢も6名が叶えました。

2012年3月卒業生のうち進学等を除く就職者の73.0%が病院、デイサービスセンター、特別養護老人ホーム、老人保健施設などに福祉の専門職として就職しています。また、6名は養護学校等の教員になりました。本学科の専門職の年間求人は2,000人以上と、出身地への就職も安心です。

■2012年3月卒業生の就職先

求人数	
医療機関相談員	173人
福祉施設相談員・介護職員等	2,383人
一般事務・その他	2,772人



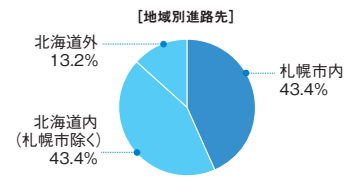
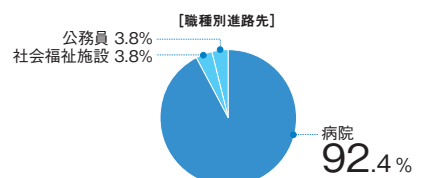
心理科学部／言語聴覚法学科

2012年卒業生の90%以上が
病院の言語聴覚士として活躍

専門の治療・訓練を必要とする言語聴覚障がい者の増加に伴って言語治療を行う医療機関や福祉施設が増えていることから、毎年本学科には多くの求人が寄せられ、就職実績は安定したものとなっています。2012年3月卒業生は就職者の90%以上が病院へ就職しました。

■2012年3月卒業生の就職先

求人数	
言語聴覚士	610人



2012年度 入試 結果報告

本年度の志願者総数は4,031名。

全体で1.6%志願者増。

志願者総数は前年度の3,969名より1.6%増の4,031名でした。志願者数が昨年31.6%増だった臨床福祉学科は、本年度も7.3%増加しています。

編入学試験の志願者総数は39名。

本学全体では39名が編入学を志願しました。うち25名が入学して、実質競争倍率は1.3倍でした。

専門学校志願者の約7割がAO方式入試を利用。

毎年志願者の多くがAO方式入試を利用しており、志願者は昨年23名から34名へと増加し、全体の約7割を占めました。

■2012年度入試結果
北海道医療大学

歯学部附属歯科
衛生士専門学校

	薬学部		歯学部		看護福祉学部				心理科学部				歯科衛生科	
					看護学科		臨床福祉学科		臨床心理学科		言語聴覚療法学科			
AO方式	志願者数	44名	19名		61名	10名	24名	24名	24名	24名	24名	24名	34名	
	受験者数	44名	19名		61名	10名	24名	24名	24名	24名	24名	24名	32名	
	合格者数	28名	19名		10名	10名	9名	12名	12名	12名	12名	12名	32名	
	実質倍率	1.6倍	1.0倍		6.1倍	1.0倍	2.7倍	2.0倍	2.0倍	2.0倍	2.0倍	2.0倍	1.0倍	
一般推薦	志願者数	24名	1名		50名	1名	15名	9名	9名	9名	9名	2名		
	受験者数	24名	1名		50名	1名	15名	9名	9名	9名	9名	2名		
	合格者数	20名	1名		18名	1名	13名	7名	7名	7名	7名	2名		
	実質倍率	1.2倍	1.0倍		2.8倍	1.0倍	1.2倍	1.3倍	1.3倍	1.3倍	1.3倍	1.0倍		
指定校特別推薦	志願者数	35名	2名		29名	21名	11名	15名	15名	15名	15名	—		
	受験者数	35名	2名		29名	21名	11名	15名	15名	15名	15名	—		
	合格者数	34名	2名		29名	21名	11名	15名	15名	15名	15名	—		
	実質倍率	1.0倍	1.0倍		1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	—		
一般前期 (大学)	1日目	2日目	1日目	2日目	1日目	2日目	1日目	2日目	1日目	2日目	1日目	2日目		
	志願者数	193名	157名	33名	22名	399名	314名	121名	93名	143名	116名	128名	109名	3名
	受験者数	186名	142名	30名	20名	392名	305名	120名	91名	142名	112名	127名	106名	3名
	合格者数	126名	126名	39名	39名	92名	92名	45名	45名	56名	56名	49名	49名	13名
一般後期	志願者数	46名	39名		36名	96名	45名	45名	56名	49名	49名	47名	13名	
	受験者数	45名	36名		36名	93名	43名	43名	53名	47名	47名	47名	13名	
	合格者数	8名	31名		31名	6名	41名	9名	9名	2名	2名	2名	13名	
	実質倍率	5.6倍	1.2倍		1.2倍	15.5倍	1.0倍	5.9倍	23.5倍	23.5倍	23.5倍	23.5倍	1.0倍	
センター前期	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B		
	志願者数	173名	109名	89名	42名	212名	114名	74名	68名	111名	95名	97名	74名	—
	受験者数	173名	109名	89名	42名	212名	114名	74名	68名	111名	95名	97名	74名	—
	合格者数	53名	41名	81名	36名	40名	29名	63名	67名	55名	49名	40名	47名	—
センター後期	志願者数	45名	20名		20名	48名	36名	36名	40名	30名	30名	30名	—	
	受験者数	45名	20名		20名	48名	36名	36名	40名	30名	30名	30名	—	
	合格者数	6名	18名		18名	7名	34名	10名	10名	3名	3名	3名	—	
	実質倍率	7.5倍	1.1倍		1.1倍	6.9倍	1.1倍	4.0倍	10.0倍	10.0倍	10.0倍	10.0倍	—	
TOTAL	志願者数	826名	267名		267名	1,323名	469名	611名	535名	535名	529名	50名	52名	
	受験者数	803名	259名		259名	1,304名	464名	603名	529名	529名	529名	50名	50名	
	合格者数	316名	227名		227名	231名	363名	263名	203名	203名	203名	50名	50名	
	実質倍率	2.5倍	1.1倍		1.1倍	5.6倍	1.3倍	2.3倍	2.6倍	2.6倍	2.6倍	1.0倍	1.0倍	
入学者数	180名	54名		54名	110名	84名	76名	69名	69名	69名	37名	37名		

2012年度 新入生オリエンテーション

本学では、新入生が大学での新生活をスタートするにあたり、一日も早く環境に慣れ、将来の目標に向かって充実した学生生活を送れるように、新入生を対象とした様々なオリエンテーション・ガイダンスを実施しています。今年度は4/9(月)から4日間にわたり実施されました。

札幌市南区的定山溪のホテルを会場に一泊二日にわたって行われた宿泊オリエンテーション(4/11~4/12)では、各学部のオリエンテーション実行委員会主催による各学部独自のプログラムが組み、「卒業生による講演会」、「同窓会提供イベント(クイズ大会・ゲーム大会)」、「各種相談コーナー」など、本学同窓会を中心に社会の第一線で働く各学部の卒業生、そして上級生や教員が一体となった楽しく充実した多くのイベントが実施されました。また、新川学長も参加し、各学部会場で挨拶を行いました。

食事時間や自由時間では、新入生同士が大いに交流を深め、温泉を楽しむなど、学生の宿泊室からはにぎやかで楽しい声が聞かれました。

参加した学生のアンケートには「多くの友人ができて大変楽しいオリエンテーションだった。また、卒業生や上級生の話や、色々なイベント・相談コーナーなどがあり、これからの学生生活や将来像の具体的なイメージがつかめた。」との感想が多く寄せられました。



ベンチプレス世界選手権大会 銅メダルを獲得

4月19日から22日まで、アメリカ・コロラド州デンバーで開催された「第12回世界マスターズ ベンチプレス シングルフリット選手権大会」において、本学歯学部16期卒業の岡山三紀助教(歯科矯正学分野)が、男子120kg級マスターズI日本代表選手として、見事銅メダルを獲得しましたので、ご報告させていただきます。

今大会には、世界25か国で選抜大会を勝ち抜いた各国代表選手153名が、標高1600メートルの都市に集結し、日頃の練習の成果を競いました。

岡山助教は在学時にはウエイトトレーニング部に在籍し、全日本学生パワーリフティング選手権1位に輝きました。卒業後にはウエイトトレーニング部コーチ兼選手として学生達を指導し、数々の全日本大会で入賞し、輝かしい成績を収めてきました。今回、初めて日本代表選手として日の丸を背負って世界の舞台に飛躍することができました。

今大会のノミネーションではメダル圏外でしたが、第1試技、第2試技と正確に成功させ、最終試技ではスウェーデン代表選手と銀メダルを競い、265kgにチャレンジ、観客をひきつける試技でした。

世界大会初出場にして銅メダルという輝かしい成績を収めることができ、表彰台で「君が代を歌いたい」と新たな目標を胸に秘めて、今大会を無事に終えることができました。

更なるパワーアップに励み、金メダル獲得を期待します。

ウエイトトレーニング部 部長
歯学部解剖学分野 教授 坂倉 康則



オーストラリア・モナシュ大学語学研修レポート

去る3月4日(日)～3月24日(土)までの21日間にわたり、薬学部5名、看護学科3名、臨床福祉学科1名、臨床心理学科2名、言語聴覚療法学科1名、計12名の学生と教員2名が、オーストラリア・モナシュ大学の語学研修に参加しました。研修を体験してきた学生たちの研修レポートをお届けします。

「オーストラリアでの三週間」

●薬学部 薬学科 4年 大前 美乃理

海外へ出たことがない私にとって、今回の語学研修は初めての海外でした。参加の決定にあたって、わからないことも多く、とても不安でした。しかし就職してからでは長期の旅行はなかなか難しくなると思い、参加を決意しました。

オーストラリアでは約3週間ホームステイをしていました。ホームステイでは、ホテルなどで一人で暮らすということとは違い、ホストファミリーとコミュニケーションをとることが必要です。日常生活における会話を日本語から英語にシフトすることで、より自然に英語に慣れ親しむことができたかと思えます。現地にいる間はモナシュ大学に通っていました。大学では、語学だけでなく、オーストラリアの文化や自然・医療などについて学びました。授業も適切な速度・難易度で進められ、積極的に参加できてよかったです。また、フィールドワークとして現地の動物園に行ったり、医療機関を見学させて頂いたり、とても貴重な体験ができたと思います。放課後や休日には友達と観光地や飲食店などに行き、日本との違いを楽しむことができました。

この語学研修に参加することで、語学のみならず、文化の違いやオーストラリアの風土について学ぶことができました。また、これをきっかけに普段関わることのなかった他の学部の人達とも友達になることができました。語学研修への参加は自分にとってとても良い刺激となり、良い経験となったと思います。

「Thanks a lot!」

●薬学部 薬学科 2年 井澤 直子

今回のオーストラリア語学研修に行くことができ、全ての人に感謝しています。初めは行くかずっと迷ってしまいました。お金がかかるし英会話を習うだけで十分だと思ってました。しかし、やはり自分の英語力を知りたくて締切りぎりぎりだったところを大学の方の協力で参加できることになりました。ひとりで参加したのでとても不安でしたが、新しい友達ができ、先輩とも仲良くくれたことは自分にとってプラスになりました。

オーストラリアのホストマザーは私の祖母よりも年上の元氣なおばあちゃんでした。同じ家には中国の留学生もいて、彼女と毎日話すのがとても楽しかったです。学校での授業は医療系のことが多かったので、医療用語をあまり知らない私にとっては少し難しかったです。英語と同時に医療のこともっと学ばなければいけないと感じました。病院訪問などでは外国と日本の違いをたくさん発見できました。外国でも働けるようになりたいと思いました。

放課後はほぼ毎日観光ができるのもとても魅力的でした。自分たちだけで現地を巡ることで英語を話す機会に恵まれ、またひとりでも交通機関を使えるという自信にもなりました。自分の英語力がわかったことでもっと話せるようになりたいと思ったり、外国への興味もさらに深まりました。

今回の経験を通して、自分のできる事とできない事がはっきりしたので、自分に必要なことからアクティブに挑戦していこうと思います。

「オーストラリア語学研修に参加して」

●薬学部 薬学科 4年 中村 書子

3週間なんてあっという間に過ぎるのだから、と覚悟して参加した語学研修でしたが、毎日充実していて、私の想像以上の速さで時間は過ぎて行きました。

モナシュ大学での授業では、病名を英語で学んだり、オーストラリアの医療システムについて勉強しました。また、教室内での勉強だけではなく、病院や老人ホーム、動物保護施設にも訪問し、スタッフの方から話を伺うことができました。

授業以外では、放課後に友達とメルボルン市内を散策したり、週末は観光ツアーを利用して遠出したりしました。

その充実した3週間の中でも、私が特に心に残っているのがホストファミリーとの時間です。ホストマザーはとても温かい方で、「今日はどんなことがあったの?こっち来て話そう!」とリビングに呼びだしてくれたので、私も積極的に話すことができました。ホストファミリーと過ごす時間は本当に居心地がよくて、帰国時は寂しさでいっぱいでした。

語学研修を終え、英語の力が劇的に伸びたとは思いますが、道を尋ねたり、オーダーしたり、完璧な英語でなくてもどうにか粘り強く説明したら理解してくれた、という様な経験をして「完璧でなくてもいいし、失敗してもいいから、とりあえず挑戦してみよう!」という気持ちを持てるようになりました。きっとこの気持ちはこれからの生活で私自身を助けてくれると思います。3週間という短い期間でしたが、得たものはとても多かったです。参加して本当に良かったです!

「オーストラリアでの時間」

●看護福祉学部 臨床福祉学科 2年 早坂 麻衣子

3週間という短い期間ではありましたが、私は多くの経験をする事ができました。前々から語学研修に参加したいとは思っていましたが、たくさんの不安を抱えてオーストラリアに行きました。

英語が得意というわけではないので、授業についていけないのかということが一番不安でした。ですが実際授業に参加してみると、先生はとても優しく、分からないことがあれば丁寧に教えてくれましたし、理解できるまで何度も話しかけてくれました。また授業内では英語に関しただけを勉強するのではなく、オーストラリアの文化、歴史、医療制度に関して学ぶことができました。知識を深めたと同時にオーストラリアにもっと関心が沸いた授業だったと思います。

またホームステイも充実したものでした。ホストファミリーは皆いい人たちでいつも話しかけてくれました。ホストファミリーは私を本当の家族のように接してくれたので、直ぐに溶け込むことができました。また休みの日になると、ショッピングモールやプールにも一緒に行き、3連休の時には2泊3日で小旅行にも行きました。

私の英語が通じなかった時は、自分のスキルの無さに少し落ち込みました。でも日が経つにつれて相手に話が伝わってきたので自信が湧いてきました。本当にオーストラリアに行ってよかったです。今はもっと英語を勉強してもう一度オーストラリアに行きたいと思っています。

「オーストラリアで学んだこと」

●心理科学部 臨床心理学科 3年 堤 沙織

オーストラリア語学研修を通して、私は、文化の違い・言語の違いにふれました。たった3週間という短い期間の語学研修。はじめは、本当に勉強になるのか不安を抱きながらも参加することに決めました。

オーストラリアで学ぶことは「語学だけ」だと思っていました。本当に、それは全然違います!どのように話したら伝わるのか、英語の聞き取り、環境の違い、文化の違い、日々の過ごし方など、「同じ人間なのにこんなに違うんだ」と気付かされることばかりで、毎日が刺激的でした。授業自体は、午前中だけで、決して長い授業ではありません。授業の先生は、とても優しく教えてくれて、ついていけないかという心配はまったくありませんでした。

私は、実際に外に出てショッピングの最中に店員さんと話したり、街の人に道を聞いたり、駅員さんと話すと話す、そして、ホストマザーと話すことなど、実際に英語を使う場面で、授業よりも格段に英語の上達につながるかと経験して感じました。日本にいると「日本語が使える」という概念がどうしても抜け出せず、わかっていても日本語をつかってしまいます。実際に海外で学ぶということをもっと多くの人に体験してもらいたいと思います。

この3週間は、素敵な思い出と、たくさんの知識を身につけることができました。一生忘れることのない大事な思い出となりました。

「貴重な人生経験」

●心理科学部 臨床心理学科 3年 植松 大貴

オーストラリアでの3週間は充実した貴重な経験になりました。私にとっての一番良い経験になったのはホームステイでした。3人家族のお家に滞在しました。ホストマザーはとてもいい人で、英語がほとんど話せない私に親身になってコミュニケーションをとってくれました。ホストファミリーは色々なオーストラリアの文化に触れさせてくれました。私が日本に帰る数日前にはホストファミリーがたくさんの友人を呼んで、私の為にパーティをしてくれました。その中には、韓国人や中国人、ハンガリー人の方など様々な国の人がいて、交流する事ができました。

オーストラリア滞在中、平日はモナシュ大学で様々な事を学びました。授業の一環で、病院や老人ホームを訪問する機会があり、日本との違いを見つけながら学びました。病院や老人ホームに関しては、ホームステイをしながら、医療現場を見ることができた事は大変勉強になりました。休みの日にはたくさんの場所を巡り、世界遺産や、動物園に行き、祭りに参加し、街を探索しました。どれも貴重な体験となりました。

オーストラリアでの3週間は、素晴らしい思い出がたくさん出来ました。私にとって初めての海外での生活はかけがえのないものとなりました。

3週間はあっという間でしたが、今回の経験は私の価値観を良い意味で変えることが出来たと思います。私はこれから進路選択をする時期が来ますが、今回の経験を生かし、進路を決定するにあたり様々な視点から物事を考えて自分の進路を考えたいです。



学生時代に得た宝もの

看護福祉学部
看護学科

准教授 竹生 礼子



私はあまり優秀な看護学生ではありませんでしたが、仲間と大学生活を大変楽しみました。高校生のころは、学びたいものがたくさんあり過ぎて進路選択に困っていました。結局、当時では国立大学として唯一の看護学部があった千葉大学に進学したいと急に思いたち、運よく入学することができました。1・2年のころは大学受験が終わった解放感で、サークル活動の方にかなり力を入れてしまいました。絵を描くのが好きで美



1年生のとき。西千葉キャンパス「絵画同好会」のサークル小屋の前で。さまざまな学部の学生が混在していた。前列右から2番目の灰色のベストスーツを着ているのが私。

大にあこがれていたこともあり、「絵画同好会」に入りました。しかし、絵画同好会はハイキングや旅行・スキーなど遊んでばかりで絵を描かない同好会でした。私にとって、このサークルは学生生活の精神的サポートしてくれる大切なものとなりました。看護学部の他に、工学部や園芸学部、教育学部、薬学部、理学部など違う学部の学生が混在していて、皆に会っていると

専門の難しい勉強や実習から離れてほっとすることもできるし、逆にお互いが取り組んでいる分野(学問)を尊重する雰囲気がありました。自分が学んでいることを他学部の学生に伝えることで、自身の分野の専門性に気づき誇りに感じられました。このサークルメンバーとは今年に一回くらい同期会を開いて会っています。

さて、3年生になって、専門的学習が進むにつれ、ようやく私も看護を学ぶことに力を入れるようになりました。実習で実際に患者さんに出会ったことにより、患者さんのケアのために「もっと勉強しなければ」と真剣になったのです。看護のおも



4年生のとき。総務省統計局前。クラスの半分が写っている。左端に中島紀恵子先生、2列目の右端中腰になっているのが私。

しろさ、奥深さを感じたのもそのころです。もっと早くからしっかり勉強すればよかった、とひとしきり後悔。

写真は4年生のときに2つのグループに分かれて総務省統計局の見学に行った時のものです。本学初代看護福祉学部長の中島紀恵子先生と一緒に写っています(約30年前)。大学では、机上の授業だけでなくさまざまな経験や見学をさせていただいた記憶があります。このクラスは結束力があり今もずっと交流が続いています。2年に一度クラス会を開いています。それぞれ皆かなりりっぱな人になっていますが、関係なく学生時代の○○ちゃんにもどれる不思議な感覚の会です。

学生時代に出会った違う学問や職業分野のサークル仲間、同じ領域で頑張っているクラスメイトはどちらも、私の人生の宝ものとなっています。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は竹生准教授と西澤教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

心理科学部
言語聴覚療法学科

教授 西澤 典子



学生時代があまり楽しくなかった、そう感じるのは勉強ができなかったから。

まじめな努力家だったから、小学校から高校まで、成績はとてよかったです。しかし、どうがんばっても点数がとれない科目がありました。それは、地理学と数学の図形問題です。いまでもテレビのクイズで、輪郭を示して「これは何県?」という問題がすらすらわかる人の気が知れません。教科だけでなく、たとえばカーナビというものは、私には全く役に立たないんです。画面から路上に目を移したとたん、地図の記憶が消えているのですから。

これはきっと、私の脳の機能に欠陥があるのでしょう。問題を解決する能力(知能)には、二つの側

面があることがわかります。視覚を通して入力された情報による能力と、聴覚を介して入力された情報による能力です。この視覚的な情報を利用する能力が私は著しく低い、そう思っています。

そういう人間がたまたま医学部に入ってしまうと、どうなるか。最初の躰きは「解剖学」ですね。膨大な、(私には何の意味もない)形の情報を片っ端から頭に入れていくことが、どうしても出来ませんでした。当時組織学の助教授でいらした阿部和厚本学名誉教授が、血球の分類が全然出来ない私を叱ること叱ること。一生懸命勉強してたんですよ、阿部先生。でも、教科書の図版をみて、顕微鏡に目を移したとたん、記憶が飛んでしまう。

解剖で落伍し、病理で落伍し、基礎医学が全くわからないまま臨床に進んでも、学問はおもしろいはずはありません。私はろくろく出席もせずに、下宿で趣味に没頭していました。(だからといって、学生諸君への出席確認が甘いと言うことは全然ないので

気をつけてくださいね。)

私の趣味は音楽のレコードを聴くことでした。「ドイツリート」というジャンルです。ピアノ一台、ソリスト一人。哲学的な詩をテキストとする歌曲を延々と歌う、大変暗い音楽です。今思い出してもため息が出ますね。ボーイフレンドもない女の子が下宿にこもって毎日レコードを聴き続ける図。

結局医学がわからないまま卒業してしまい、将来に希望も持てなかった私は考えたわけです。「ダメならダメで、好きなことをやろう。」好きなこと→歌を聴くこと→声のお医者さん。という短絡で、耳鼻咽喉科を選択してしまった私は、その後、師の恩に恵まれ、学問の楽しさを知り、言語聴覚医学の専門家として、人を教える立場になりました。

このような学生時代を送ってきた私の、学生諸君へのメッセージ。「迷ったときは好きなことをやろう。10年たてば世の中は変わる。きっとあなたが必要とされる時代になりますよ。」

OG訪問

17の診療科に1日700名の外来患者が来院する中核病院で、薬剤部総勢15名スタッフとともに薬物治療にあたる加藤さん。日々の業務と併行し研究・学習に取り組む姿勢は、病院薬剤師としてさらに上をめざす意欲を感じさせます。

札幌社会保険総合病院 薬剤部 薬剤師

加藤 亜弥子さん (薬学部薬学科2008年卒業)



患者さんの心のそばで。

「患者さんに頼られてるんだなって感じた時のこと」。お仕事で最も心に残っている出来事について、加藤さんは続けます。「患者さんの目には、きっと医師は常に多忙に映り遠慮してしまうでしょう。『先生はいつも忙しそうでなかなか言えなくて、ついあなたに話してしまうね』と言われたんです」。

当初1年間は調剤業務がメインで、服薬指導など病棟活動にも参加するようになったのは2年目以降です。患者さんとの直接的な関わりを持つほどに、「心の通い合いの大切さを感じます。それが病院薬剤師ならではの“やりがい”なのかも」と静かに話します。現在、がん化学療法や緩和ケアの医療活動の一翼を担う加藤さん。「例えばがん患者さんが背負っている、痛みや苦しみ、不安や不満。そういった負の一面もありのままに話していただけるような、心の距離が近い場所にいたいですね」。



院外処方せん全面発行のため、薬剤部では内服薬や注射薬の調剤や院内製剤、抗がん剤の調製などを行っています。また入院患者さんの持参薬や健康食品などを調査・確認し服薬指導を行うなど、患者さんにとってより安心できる医療提供に努めています。

チーム医療の一員として。

さらに加藤さんの業務は、カンファレンス参加、ラウンド、抗がん剤治療のレジメン管理にも及びます。その活動では常に、医師や看護師など他の医療専門職との連携が欠かせないものとなっています。

一例を挙げれば、医師に対し抗がん剤の副作用による患者さんの負担を減らすための支持療法として、吐き気止めの追加を提案するなど。また

看護師と加藤さんの間では、「これから副作用が出るケース、言動から強い心理的ストレスを感じるケースなど、注意が必要な患者さんについての情報共有に努めています」。時には、医師から副作用予防の対策や薬物療法の評価について意見を求められたり、看護師から輸液等の配合変化等を確認されます。加藤さんが薬物治療の専門家として、医療チームにとって頼もしい存在であることは間違いありません。



緩和ケアチームのカンファレンスで、患者さんに最も適した安全で効果的な治療を行うために、各専門職がそれぞれの立場から情報や意見を活発に交換。薬物療法の専門家である加藤さんは、チームとしてなくてはならない存在です。

同業の後輩や仲間と共に。

勤務先の薬剤部は、薬剤師研修センター実務研修生の研修認定施設および日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設に認定され、薬剤師養成機関としての機能も果たしています。当然、薬学部の実習生も受け入れ、「医療大の後輩たちもたくさん来ますよ。どの学生さんも初めは、患者さんとなかなか上手く会話が続きません」と笑います。けれど実習期間が終わる頃には、みんな強たくたくましく変わるそう。「かつて私が先輩から教えてもらったように、私も後輩へ生きる何かを、伝えられ



在学中は女子バスケットボール部に所属。部活の後に一緒にご飯を食べた仲間には、薬学部の同期生も多かったそう。「公私を問わず今でもよく会っています。話が合うので、楽しいです」

たらうれしいですね」。

医療大での加藤さんの一番の思い出は、「バスケットボール部で遠征した先の函館をみんなで観光したこと。あと、生化学や微生物の勉強をもっとしっかりやっておけば良かったです」と苦笑い。ご両親と同じ薬剤師を目指すため、郷里を離れ進学したものの「バスケット部が薬学部にはないので、ホームシックとは無縁でした」と言います。部活も学部も一緒だった友達との絆は、今もつながっています。

目の前の課題は経験を積むこと。

日進月歩で変わりゆく医薬品や薬物療法の最新情報を得るため、加藤さんは研修会や学会に積極的に参加しています。2011年9月に関東で開催された学会では、研究成果をポスター展示で発表しました。「フェンタニル貼付2製剤に対する皮膚水分蒸散測定器を用いた比較検討を、同僚をモデルに検討。研究そのものより発表のための準備の方が、大変だったかもしれません」。

その研究の出発点は患者さんです。「各製剤の特徴を理解したうえで貼付薬を使用すれば、薬物治療の精度向上に役立つかも、と思ったのがきっかけですね。加藤さんはこう続けます。「でも私は、病院薬剤師としてはまだまだ未熟。もっと引き出しをたくさん持っていないとダメだし、手持ちの引き出しをつなげて活用する力も足りません」。そのためまずは、経験値を増やすことに尽力。「できるならば、どんな患者さんの痛みにも対処できる薬物療法のスペシャリな引き出しを、私の中に積み上げていきたいです」。



院内業務に加え薬剤師会の研修に月に数回、各種学会に年1・2回ほど参加し、自己研鑽に努める加藤さん。旧友をはじめ頑張る同業たちに刺激を受けて、日々の業務への意欲を得ています。

2011年度決算について

2011年度決算は、学園監事による監査を受けた後、5月24日開催の理事会において承認されましたので、その概要についてお知らせします。

2011年度決算の概要

はじめに
 経済状況の悪化や少子化による18歳人口の減少等により、学校法人の経営は一層厳しさを増しています。そうした状況下においても本学園の社会的使命である教育研究活動を発展させていくため、授業料収入などの有限の財源のほかに補助金や受託研究等外部からの資金導入を積極的に図り効率的・効果的に教育研究活動を展開してきました。今後も努力を重ねてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

【計算書の解説】

資金収支計算書は、当該会計年度における法人全体の教育研究活動等諸活動に対する資金の収支を明らかにするものです。

消費収支計算書は、当該年度の学生納付金等の「帰属収入」から「基本金組入額」を控除した「消費収入」と人件費・教育研究費等の「消費支出」との均衡状態、内容により経営状況を把握するものです。消費収支計算書は、資金収支計算書の収入から学校法人の帰属収入とならない借入金等収入および資金の動きだけを示す前受金、その他の収入等は除かれます。また、支出から借入金等返済支出、施設関係支出、設備関係支出等が除かれます。一方、消費支出として退職給与引当金繰入額および減価償却額が計上され、寄付金収入には現物寄付金が計上されます。

消費収支計算書の基本金組入額は、教育研究のために取得した資産(校舎・校地・機器備品・図書等)の額、将来取得する資産に充てる額、基金として継続的に保持する資産の額、運営に必要な運転資金の額が対象です。

貸借対照表は、学校法人の会計年度末の財政状態をあらわした計算書類で、負債・基本金および消費収支差額の状況を前年度末の額と比較して示します。

【資金収支計算書】

収入に関しては、手数料収入が予算比621万円増、補助金収入が予算比1,562万円増、寄付金収入が予算比1,694万円増、雑収入が予算比3,135万円増となりました。学生生徒納付金収入が予算比3,702万円減、事業収入が予算比1億3,277万円減となりました。収入の計は予算比2億6,637万円減の89億4,580万円となりました。

また、支出に関しては、人件費支出が予算比4億4,550万円減、教育研究経費支出が予算比1億7,426万円減、管理経費支出が予算比3,689万円増となりました。施設設備関係支出については、薬学部薬学教育支援室の設置工事等を行いました。支出の計は予算比5億9,750万円減の80億4,843万円となり、次年度繰越支払資金は予算比3億3,113万円増の74億7,387万円となりました。

【消費収支計算書】

帰属収入は予算比1億101万円減の89億8,152万円となり、基本金組入額は予算比9,057万円減の1億8,539万円となりました。その結果、消費収入は予算比1,043万円減の87億9,613万円です。

資金収支計算書

【収入の部】				【支出の部】			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	6,138,405	6,101,388	37,017	人件費支出	5,416,990	4,971,495	445,495
手数料収入	80,636	86,845	△ 6,209	教育研究経費支出	2,270,433	2,096,168	174,265
寄付金収入	28,000	44,943	△ 16,943	管理経費支出	451,371	488,266	△ 36,895
補助金収入	976,092	991,708	△ 15,616	施設関係支出	166,686	79,765	86,921
資産運用収入	76,001	76,069	△ 68	設備関係支出	273,548	207,421	66,127
事業収入	1,498,944	1,366,179	132,765	その他の支出	702,687	707,254	△ 4,567
雑収入	259,452	290,806	△ 31,354	予備費	(49,303)		
前受金収入	775,617	671,216	104,401		697		697
その他の収入	581,359	561,990	19,369	資金支出調整勘定	△ 636,489	△ 501,942	△ 134,547
資金収入調整勘定	△ 1,202,331	△ 1,245,339	43,008	当年度資金支出合計(B)	8,645,923	8,048,427	597,496
当年度資金収入合計(A)	9,212,175	8,945,805	266,370	次年度繰越支払資金	7,076,256	7,407,382	△ 331,126
前年度繰越支払資金	6,510,004	6,510,004	0	支出の部合計	15,722,179	15,455,809	266,370
収入の部合計	15,722,179	15,455,809	266,370				

※四捨五入の関係で、合計など数値が計算上一致しない場合があります。
 なお、以下の表についても同様です。

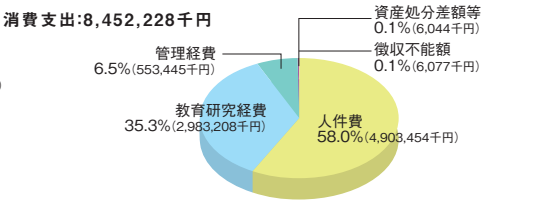
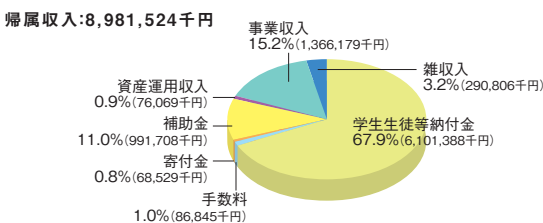
当年度資金収支差額(A)-(B)	566,252	897,377	△ 331,125
------------------	---------	---------	-----------

消費収支計算書

【収入の部】				【支出の部】			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	6,138,405	6,101,388	37,017	人件費	5,407,021	4,903,454	503,567
手数料	80,636	86,845	△ 6,209	教育研究経費	3,177,222	2,983,208	194,014
寄付金	53,000	68,529	△ 15,529	管理経費	520,470	553,445	△ 32,975
補助金	976,092	991,708	△ 15,616	資産処分差額	20,000	6,044	13,956
資産運用収入	76,001	76,069	△ 68	徴収不能額	0	6,077	△ 6,077
事業収入	1,498,944	1,366,179	132,765	予備費	(10,034)		39,966
雑収入	259,452	290,806	△ 31,354		39,966		
帰属収入合計(A)	9,082,530	8,981,524	101,006	消費支出の部合計(B)	9,164,679	8,452,228	712,451
基本金組入額合計	△ 275,965	△ 185,391	△ 90,574	当年度消費収入超過額		343,905	
消費収入の部合計	8,806,565	8,796,132	10,433	当年度消費支出超過額	△ 958,114		
				前年度繰越消費支出超過額	△ 10,382,031	△ 10,382,031	
				翌年度繰越消費支出超過額	△ 10,740,145	△ 10,038,126	

帰属収支差額(A)-(B)	△ 82,149	529,296	△ 611,445
---------------	----------	---------	-----------

■2011年度消費収支の構成比率



貸借対照表

【資産の部】				【負債・基本金・消費収支差額の部】			
科目	2011年度末	2010年度末	増減	科目	2011年度末	2010年度末	増減
固定資産	24,486,776	25,092,324	△ 605,548	固定負債	1,831,300	1,904,016	△ 72,716
有形固定資産	16,870,078	17,505,242	△ 635,164	流動負債	1,221,424	1,468,823	△ 247,399
その他の固定資産	7,616,698	7,587,081	29,617	負債の部合計(B)	3,052,724	3,372,839	△ 320,115
流動資産	7,933,196	7,118,467	814,729	基本金	39,405,374	39,219,983	185,391
資産の部合計(A)	32,419,972	32,210,791	209,181	繰越消費支出超過額	10,038,126	10,382,031	△ 343,905
				合計	32,419,972	32,210,791	209,181

正味資産(A)-(B)	29,367,248	28,837,952	529,296
-------------	------------	------------	---------

■主な事業の実績

2011年度事業計画に基づく、主な事業と進捗状況は、以下のとおりです。

■教育活動及び学生支援活動

- 1. 大学院薬学専攻科薬学専攻博士課程(新課程)の設置**
 2011年度に、6年制の薬学部が完成年次を迎え、従来の大学院博士後期課程を改編し、6年制薬学部を基礎とする新たな博士課程(4年課程:入学定員3名)を、2012年4月1日を以て設置しました。
- 2. 専門看護師(CNS)の養成**
 専門看護師は、特定の分野で実践者をサポートできる研究・指導力と、卓越した実践力を備えた看護師と定義づけられており、日本看護協会が資格認定を行っているものです。
 本学では、大学院看護福祉学専攻科で、母性看護、老年看護、精神看護、慢性看護、がん看護及び感染看護の6分野を開講しており、その養成に努めました。
- 3. 文部科学省「国公立私立大学を通じた大学教育改革の支援の充実等プログラム」採択事業の推進**
 - ①がんプロフェッショナル養成プラン
 2007年度採択の「北海道の総合力を生かしたプロ養成プログラム～大学・地域・病院の連携を生かしたがん専門医療人の育成～」について、年次計画に基づき実施し、2011年度をもって終了しました。
 - ②大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)
 2009年度採択の「学生キャンパス副学長」との協働によるキャリア・就職支援について、年次計画に基づき実施し、2011年度をもって終了しました。
 4. 就職・キャリア支援
 ①学内合同就職相談会の開催
 2011年度又は2012年度の新規卒業生の採用を予定している病院、一般企業、社会福祉施設、行政機関など、63団体の参加を得て開催しました。
 ②薬学セミナー(学内合同就職相談会)
 薬学6年制移行後、初の卒業生となる6年生を主な対象に103団体の参加、また薬学部学生を対象に144団体の薬科部門責任者・人事担当者の参加を得て開催しました。
 5. 「夢つなぎ入試」の実施
 経済的理由により進学が困難な状況にある受験生を対象とした「夢つなぎ入試」を前年度に引き続き実施しました。(各学部・学科・学校総募集定員の5～10%程度)
 6. 本学卒業生子女入学の奨励
 本学薬学部卒業生の子が薬学部に入學したとき、教育充実費を2,000千円減免する制度を前年度に引き続き実施しました。また本学卒

- 業生の子及び複数の兄弟姉妹が入学した場合、入学金の返還を以て奨励金を支給する「複数入学者奨励金」制度を引き続き実施しました。
- 7. 歯学部特待奨学生」制度の実施**
 本学歯学部成績優秀で入学した者に対し、国立大学と同等の授業料とする特別奨学制度を実施しました。(募集定員10名)
- 8. 初年度学生納付金額等の見直し**
 初年度学生納付金額の引き下げにより、入学者の経済的負担の軽減を図りました。また歯学部教育充実費の見直し(1,000千円の減額)を実施しました。
- 9. 「歯科衛生士専門学校早期入学奨学生」制度の実施**
 本学歯科衛生士専門学校に成績優秀で入学し、一定の要件を満たして入学した者に対し、入学金の半額を減免する制度を2012年度入学生より実施しました。
- 10. その他の経済的支援の実施**
 東日本大震災により被災した在学生に対し、入学金の全額免除、授業料の全額あるいは半額を減免する制度を導入し、実施しました。また学納金の納入期日の延長、災害事故等奨学生制度の弾力的な運用をするなど学生の経済的支援に努めました。

研究活動

- 1.文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択事業の推進
①ハイテクリサーチセンター整備事業
2007年度採択の大学院歯学研究所「QOLの向上を目指した歯科口腔健康科学の創成」について、年次計画に基づき実施し、2011年度をもって終了しました。
②学術フロンティア推進事業
2007年度採択の大学院看護福祉学研究所「認知症高齢者のトータルケアに関する学術的研究」について、年次計画に基づき実施し、2011年度をもって終了しました。
2.外部資金の導入
研究活動を活性化し、科学研究費など競争的研究資金の導入に向け積極的の申請を行うとともに、寄付金や受託研究など外部資金の導入を積極的に図りました。
3.教員研究費等の削減及び配付基準見直し
教員研究費基礎配付額の20%を削減し配付しました。また重点配付研究費として1,500万円を措置し競争原理の導入を図り実施しました。

診療活動

- 1.医療機関の収入状況等
大学病院では、前年度実績に比して延患者数が増加しましたが、調剤業務の院外処方への影響もあり、医療収入は減少となりました。また、歯科内科クリニックでは、延患者数、医療収入ともに前年度実績を下回りました。なお、大学病院における病棟(24床)稼働率は、50.5%(2010年度:47.7%)でした。
2.院外処方体制への切り替え
2011年8月より、大学病院の調剤業務については、院外処方へ切り替えを実施しました。

社会貢献・連携

- 1.北海道「福祉・介護人材サポートネットワーク構築事業」の選定事業の推進
2010年度選定の「福祉・介護人材サポートネットワーク構築事業(福祉・介護人材確保普及啓発事業)」について、年次計画に基づき実施しました。
2.公開講座
認定テーマに沿った開講や内容の充実等、一般向、卒業生・職能人向ともに本学の特色を生かした講座を実施しました。
3.高大連携
北海道札幌礼拝山高等学校及び北海道有明高等学校と高大連携に関する協定に基づく講義・実習をはじめとする事業を行いました。
4.コミュニティバス事業
2006年度より、本学及び当別町を含む3団体の共同によるコミュニティバス(循環バス:当別町〜札幌市北区あいの里)を運行しているが、学生・患者及び地域住民の利便性等を考慮し、2011年度も継続して参画しました。

5.本学施設の地域への開放

- 前年度に引き続き、総合図書館、体育館など、本学の施設を地域住民に積極的に開放しました。
6.地域住民への健康・医療情報の提供
前年度に引き続き、「わかりやすい健康情報講座」の開催、また、本学が所在する当別町に対し、「いのちの図書」の貸出等を行い、地域住民に対し、健康・医療情報の発信、また、臨床現場の医療従事者に対する医療情報提供サービスを実施しました。
7.東日本大震災に伴う被災地支援
東日本大震災の発生に伴い、関連省庁等からの要請に基づき被災地支援のため、3月21日から5月22日まで、様々な資格・専門知識を有する教員(延べ35名)を派遣しました。

生涯学習

- 1.薬剤師支援センター
2011年3月に、薬剤師認定制度認証機構より生涯研修認定制度認証機関として本学薬剤師支援センターが認証され、それに伴い同センター独自で認定が可能となりました。その制度に関する事業を中心として、医療現場との共同研究の推進及び連携事業を実施しました。
2.認定看護師(CN)の養成
認定看護師は、日本看護協会が実施する認定看護師認定審査に合格し、ある特定の認定看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められた者と定義づけられています。本学では、認定看護師研修センターにおいて、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、がん化学療法3分野を開発し、その養成に努めました。

国際交流

- 1.国際交流
本学では、現在、大学間4大学(アルバータ大学・台北医学大学・中南大学・モナシ大学)、学部間5大学(同済大学・ニューヨーク州立大学バップアロー校・青島大学・インドネシア大学・ストラスブール大学)と連携協定を締結し、教育及び学術における国際交流を推進しています。ストラスブール大学とは、短期留学生1名を2ヶ月間(9月〜11月)の受け入れを実施しました。
2.語学研修
2011年8月にアルバータ大学と、2012年3月にはモナシ大学と語学研修を実施しました。(参加者21名)

広報活動

- 募集広報として、前年度に引き続き認知広報としてのテレビCM(北海道及び沖縄県)、ホームページの機能面の拡充、メールマガジンの定期発行及びオープンキャンパスの開催回数の増加などを実施しました。
2012年度入試においては、薬学部・看護福祉学部看護学科、心理科学部の募集定員の増、歯学部及び看護福祉学部臨床福祉学科の募集定員減、歯科衛生士専門学校でのAO方式入試早期特別枠の新設を行いました。

経営管理

- 1.人件費抑制策の実施
国家公務員の給与支給実態を参考として給与規程を改正し、2011年4月給与から適用しました。また、2009年4月よりポイント制人件費管理システムを導入し、人事管理を定数管理型から人件費管理型への改革を図ってきました。各部局の総ポイント(2012年4月1日時点で3%)削減する事を目標としていました。
2.施設設備関係
1.看護福祉学部棟外壁塗装工事
看護福祉学部講義・実習棟の外壁塗装工事を実施しました。
2.薬学部薬学教育支援室設置工事
薬学部棟3階調剤実習室を改修し、新たに薬学部薬学教育支援室の設置工事を実施しました。
3.看護福祉学部棟看護実習室改修工事
看護福祉学部棟5階看護実習室の拡張及び改修工事を実施しました。
4.学生支援課窓口等改修工事
学生の就職支援、窓口サービスに対応するため、学生支援課及び就職相談室の改修工事を実施しました。

「2020行動計画」の推進

- 1.教育力向上
教育力向上プロジェクトにおいて示された事項について、継続して検討中です。なお、2012年度から全教員を対象として授業公開を実施する予定です。
2.医療機関健全化
医療機関健全化プロジェクト審答に基づき実施案の具体的検討を策定し、実施しました。
①個体差医療科学センター改組実施検討委員会
同委員会において策定された改組案について、2011年4月に実施しました。
②医療機関一元化実施検討委員会
2011年9月開催の理事会にて基本事項(方針)が報告されました。
3.学部再編・新分野設置等
2011年12月開催の理事会において新学部(リハビリテーション科学部/理学療法学科・作業療法学科)の設置承認がされました。引き続き2013年4月開設に向けて準備を進めてまいります。
4.経営管理
前述のとおり一部実施済であるが、引き続き、効率のかつ健全な経営に向け、諸方策を策定し、実施する予定です。
5.学生確保プロジェクト
学生確保プロジェクトにおいて示された事項について、継続して検討中です。なお、2012年度から入試アドバイザーを増員し、更なる広報強化に努めてまいります。

学校法人 東日本学園
2012年度予算について

2012年度(平成24年度)当初予算は、3月22日開催の評議員会・理事会、
予算の補正は、5月24日開催の評議員会・理事会で承認されましたので、その概要についてお知らせします。

2012年度予算の概要

概要

少子化進行に伴う18歳人口の減少に反し、私立大学の設置数は年々増え続けており、多くの私立大学にとって、学生の確保が大きな問題となっています。加えて、近年では国公立大学の法人化や大学設置認可制度の規制緩和に伴い、大学間の学生確保の環境はより一層厳しさを増しています。
日本私立学校振興・共済事業団によれば、2011年度は私立大学全体の39.0%にあたる223校が定員割れの状況にあります。学生数の減少は学生生徒納付金だけでなく、経営費補助金の減少にも影響し、学校経営に極めて深刻な影響を及ぼしています。

本学園の「パラダイムシフトによる新医療人育成の北の拠点づくり」を旗印とした「2020行動計画」は、今年で4年目を迎えました。安定した財源がなければ各種プロジェクトの実現は極めて困難ではありますが、教育理念に基づき、新たな事業展開として、少子高齢化を迎える時代に貢献する高度なリハビリテーション・スタッフの養成を目的とした「リハビリテーション科学部」を設置することとし、本格的にその準備に着手いたします。

【資金収支予算書】

収入に関しては、前年度予算比3億2,224万円減の88億8,994万円と見込んでいます。科目別には、学生生徒納付金収入、事業収入等の減収が

見込まれる半面、手数料収入、前受金収入の増収が見込まれます。

また、支出に関しては、前年度予算比22億9,404万円増の109億3,996万円と見込まれます。人件費支出は前年度予算比1億6,996万円の減、教育研究経費支出は前年度予算比782万円の増、管理経費支出は前年度予算比5,247万円の増です。施設関係支出は新学部(リハビリテーション科学部・理学療法学科・作業療法学科)の設置に係る中央講義棟の増築工事等の支出、また設備関係支出は学生の国家試験対策用教室の冷暖房設備の設置、テニスコートの改修工事等の支出を計上しています。次年度繰越支払金は53億5,736万円を見込んでいます。

【消費収支予算書】

帰属収入は前年度予算比3億7,745万円減の87億508万円を見込み、基本金組入額は20億4万円増を見込んでいることから、消費収入は前年度予算比29億7,749万円減の58億2,908万円になると見込まれます。

また、消費支出は前年度予算比9,462万円減の90億7,006万円を見込んでいます。

これらの結果、当年度消費支出超過額は32億4,098万円です。帰属収入から消費支出を引いた帰属収支差額については、前年度予算比2億8,283万円減のマイナス3億6,498万円を見込んでいます。

主な事業計画

- 教育及び学生支援活動
1.リハビリテーション科学部(理学療法学科・作業療法学科)の設置
2.大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(新課程)の設置
3.国家試験対策の充実・支援
4.キャリア支援環境の整備
5.「夢つなぎ入試」の実施
6.本学卒業生女子入学奨励制度の実施
7.「歯学部特待奨学生」制度の実施
8.東日本大震災被災地入学者に係る学納金等の免除の実施
9.初年度学納金の見直し
10.学生への経済的支援
■研究活動
1.専門看護師(CNS)の養成
2.診療看護師(NP)の養成
3.外部資金の導入
4.教員研究費等の配付基準見直し
■診療活動
1.医療機関の経営健全化
■社会貢献・連携
1.北海道「福祉・介護人材サポートネットワーク構築事業」採択事業の推進
2.高大連携
3.公開講座
4.コミュニティバス事業の参画
5.本学施設の地域への開放
6.地域住民への健康・医療情報の提供
■生涯学習
1.薬剤師支援センターにおける認定薬剤師研修の実施
2.認定看護師の養成
■国際交流
1.大学・学部間交流
2.語学研修の実施
■経営管理
1.人件費の抑制
2.予算の効率的運用及び削減
■施設・設備
1.新学部設置計画に基づく、中央講義棟の増築工事及び設備の整備
2.歯科内科クリニック棟6階の改修工事
3.歯学部エレベーターの改修工事・学生用トイレ改修工事
4.換気排煙設備改修工事、機械室蒸気本管減圧弁取替工事
5.学生の国家試験対策用教室の冷暖房設備の設置、テニスコートの改修工事
■その他
1.情報の積極的な公開
2.「2020行動計画」の推進

資金収支予算書

Table with columns: 収入の部 (科目, 2012年度予算, 2011年度予算, 増減), 支出の部 (科目, 2012年度予算, 2011年度予算, 増減). Rows include 学生生徒等納付金収入, 手数料収入, 寄付金収入, etc.

消費収支予算書

Table with columns: 収入の部 (科目, 2012年度予算, 2011年度予算, 増減), 支出の部 (科目, 2012年度予算, 2011年度予算, 増減). Rows include 学生生徒等納付金, 手数料, 寄付金, etc.

2012年

新入生アンケート 結果報告

毎年恒例の全学実施の新入生アンケート。新入生が本学のどこに魅力を感じて志願したのかを聞いてみました。

多くの学生が「医療系総合大学」に期待。

全ての学科において、医療系総合大学である点を魅力に挙げた学生が多いという結果になりました。また「学生生活」という回答も多く、課外活動などでも他学科との交流が盛んなことに対する大きな期待があらわれています。

注目が集まる「国家試験成績」と「キャンパス環境」。

高い合格率を誇る国家試験成績にも、回答が集中。また「キャンパス環境」を挙げる学生も多く、臨床心理学科、言語聴覚療法学科では1番の魅力に。自然と先端の施設・設備で学べる環境も本学の強い魅力であると言えます。

歯科衛生士専門学校では、おおよそ8割がオープンキャンパスに参加。

施設見学や体験学習などを通して学校の雰囲気をおよそ8割がオープンキャンパスに参加。例年通り、多くの学生がこの機会を利用していることがわかります。

■有効回答者のプロフィール

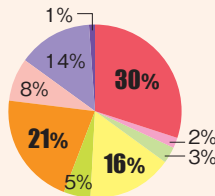
	薬学部	歯学部	看護福祉学部 看護学科	看護福祉学部 臨床福祉学科	心理科学部 臨床心理学科	心理科学部 言語聴覚療法学科
回答者人数	179	57(編入含)	106(編入含)	77	79(編入含)	71(編入含)
出身地						
北海道	163	43	104	72	65	61
東北	10	2	1	5	12	8
東京・神奈川・千葉・埼玉	3	2	0	0	0	0
上記以外の関東甲信越	0	1	0	0	0	1
東海・北陸	1	2	0	0	1	0
関西	0	4	0	0	0	0
中国・四国	1	1	0	0	0	1
九州・沖縄	1	2	1	0	1	0
性別						
男	88	31	13	25	31	12
女	91	26	93	52	48	59
卒業年度						
2012年3月	151	30	91	70	64	60
2011年3月	15	8	8	5	8	6
2010年3月以前	13	19	7	2	7	5
入試形態						
AO方式入試	28	18	9	9	9	12
一般推薦入試	20	1	16	1	13	7
特別推薦入試	34	2	26	19	11	15
一般前期入試	65	6	37	14	24	12
センター前期A入試	18	15	6	9	9	12
センター前期B入試	10	4	4	12	9	10
一般後期入試	3	4	4	9	1	0
センター後期入試	1	2	1	4	0	0
編入学試験	0	5	3	0	3	3

北海道医療大学

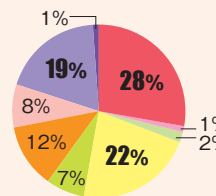
Q. 本学を志望した際、併願を考えた他大学と比べて本学のどこに魅力を感じましたか？

- 医療系総合大学である
- 校風
- 教育内容
- 学生生活
- クラブ活動
- 国家試験成績
- 就職状況
- キャンパス環境
- たくさんの教育・研究プロジェクトに採択されている
- その他

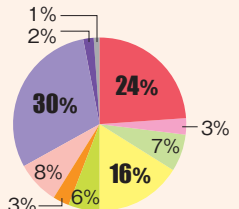
薬学部 薬学科



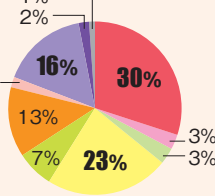
看護福祉学部 看護学科



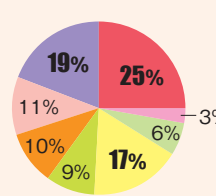
心理科学部 臨床心理学科



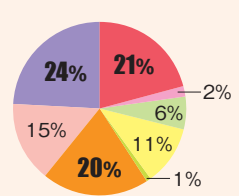
歯学部 歯学科



看護福祉学部 臨床福祉学科



心理科学部 言語聴覚療法学科

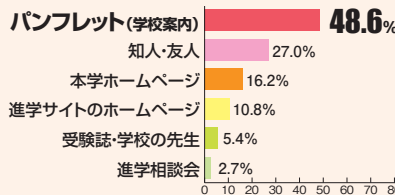


歯学部附属歯科衛生士専門学校

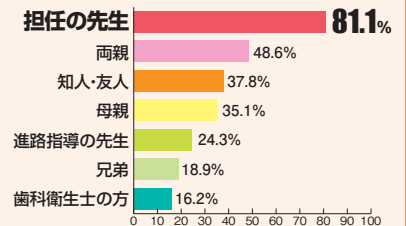
Q. 本校のオープンキャンパスに参加しましたか？

参加した **78.4%**

Q. 本校を何で知りましたか？(複数回答可)



Q. 進路決定にあたって誰に相談しましたか？(複数回答可)



EDITOR'S NOTE

東日本大震災と原子力発電所の事故が発生してすでに一年が経ってしまいました。まだまだ大きな困難が横たわっており、国民一体となって取り組むべき非常に重要な課題が、解決に向かう道筋さえ決まらずに存在しています。議論は収束せず、時間が経っていく中で、震災や原発事故に派生した新たな課題の対応に追われているのが現状となっています。なにが優先事項で、どのような犠牲を払ってでもやるべき重要事項なのか、課題が多すぎてだれも解りません。

このようなときに大事な情報は共有して議論し、衆人の知恵を結集することであろうと誰しも思いますが、第一段階の情報共有さえいかに困難であるかが、震災と原発事故で証明されてしまいました。

この大学の広報誌も大学という組織で情報共有の手段であるはずですが、はたして多くの人に興味を持って読まれる紙面になっているのでしょうか。

そういえばつい最近、国民のだれしもが欲しいと思っていた情報が、他国での報道により入手できたものの、日本国政府からは随分遅れて発表されてがっかりしたことを経験しました。本当に情報伝達は難しいようです。

(E.N記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.151

STAFF ● 増田 園子 浜上 尚也 安産 善裕 中山 英二
鎌口 有秀 志渡 晃一 竹生 礼子 富家 直明
榊原 健一 杉原 佳奈 長原 利明 宮崎 隆志
宮川 雄一 戸藤 成人

発行日 ● 2012年6月13日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。